

大津市における 在宅医療・連携研修の取組み

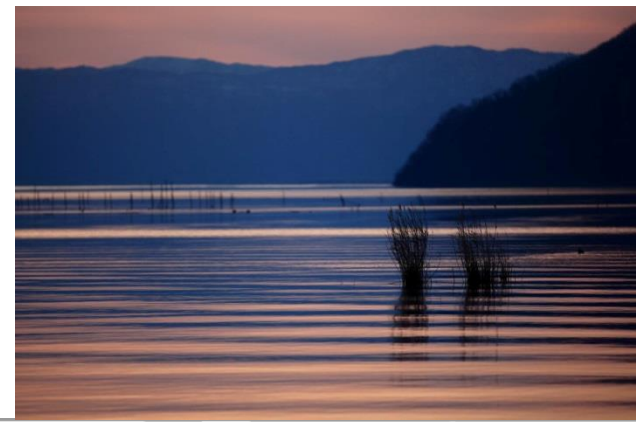
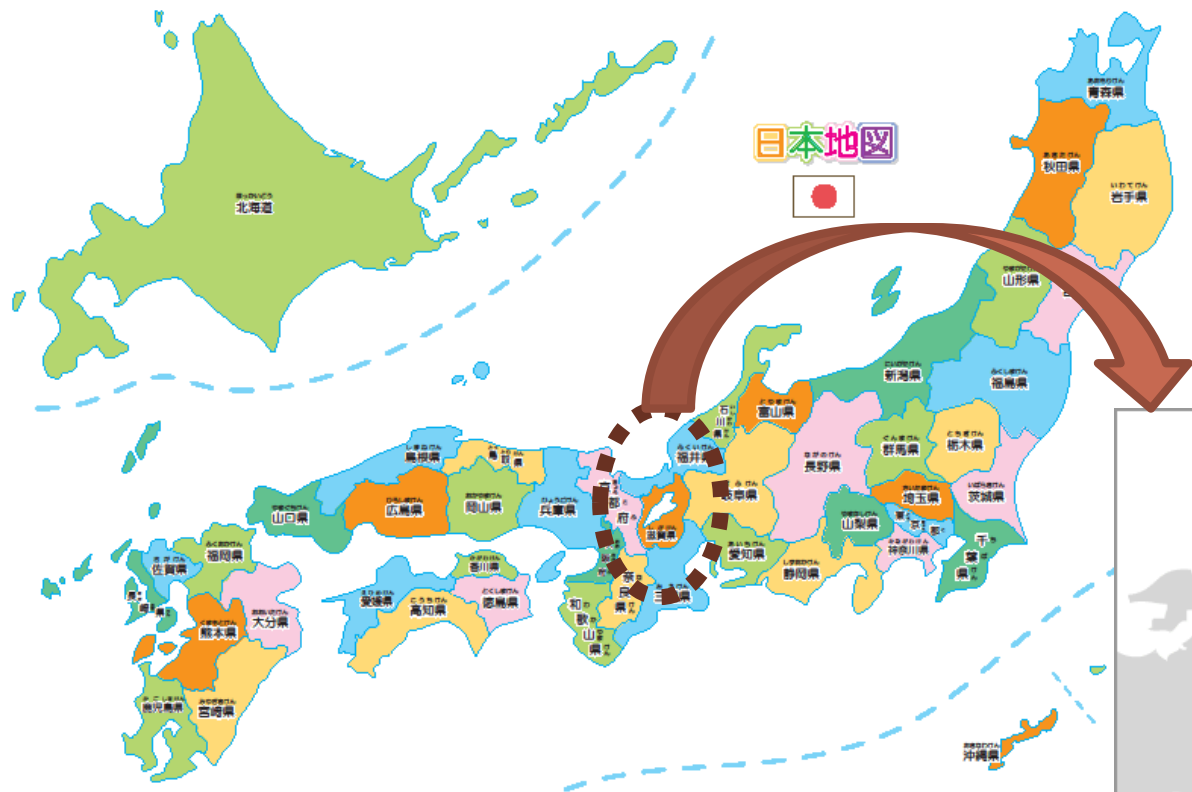
大津市保健所保健総務課 兼 地域包括ケア推進室
坂口 和代

平成27年10月16日 第2回 全国在宅医療・医療介護連携研修フォーラム

本日の内容

- 1 大津市の概要
- 2 大津市における医療介護連携推進事業
- 3 多職種連携の取組
 - ① これまでの経過と取り組み体制
 - ② 取り組み内容
 - ア)多職種連携のための研修会等
 - イ)入退院支援ルールの策定





大津市の概要

人口 342,341人(※1) H27.9.1現在
世帯数 143,436世帯(※1)
1世帯当たり人員 2.38人(※1)
幼年人口(14歳以下) 14.3% (※2) H27.7.31現在
高齢人口(65歳以上) 24.0% (※2)
行政区域(小学校区) 37学区(※1)
人口密度 728人(※3) H22国政調査結果

大津市の大きさ

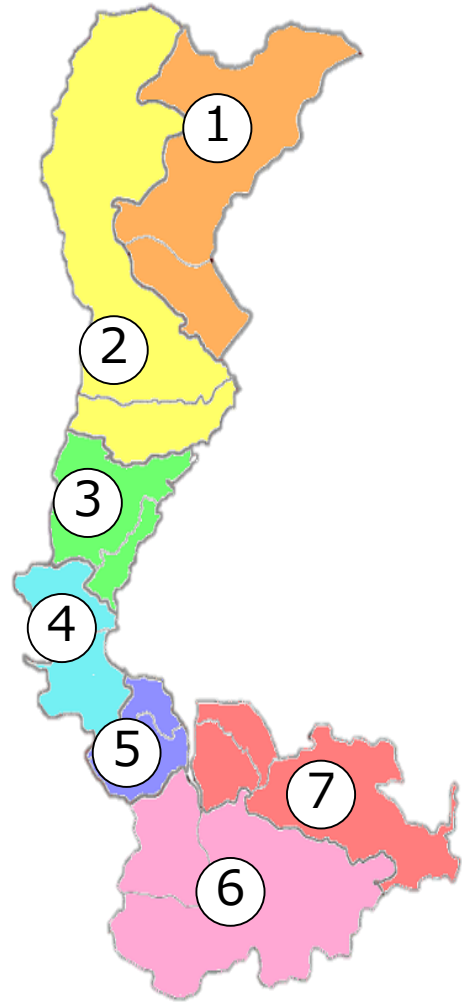
面積 464.51平方km
東西 20.6km
南北 45.6km

《医療施設の状況》(H27.3.31現在)

【病院】	施設数	15	病床数	4,140
【診療所】	施設数	279	病床数	139
【歯科診療所】	施設数	141		

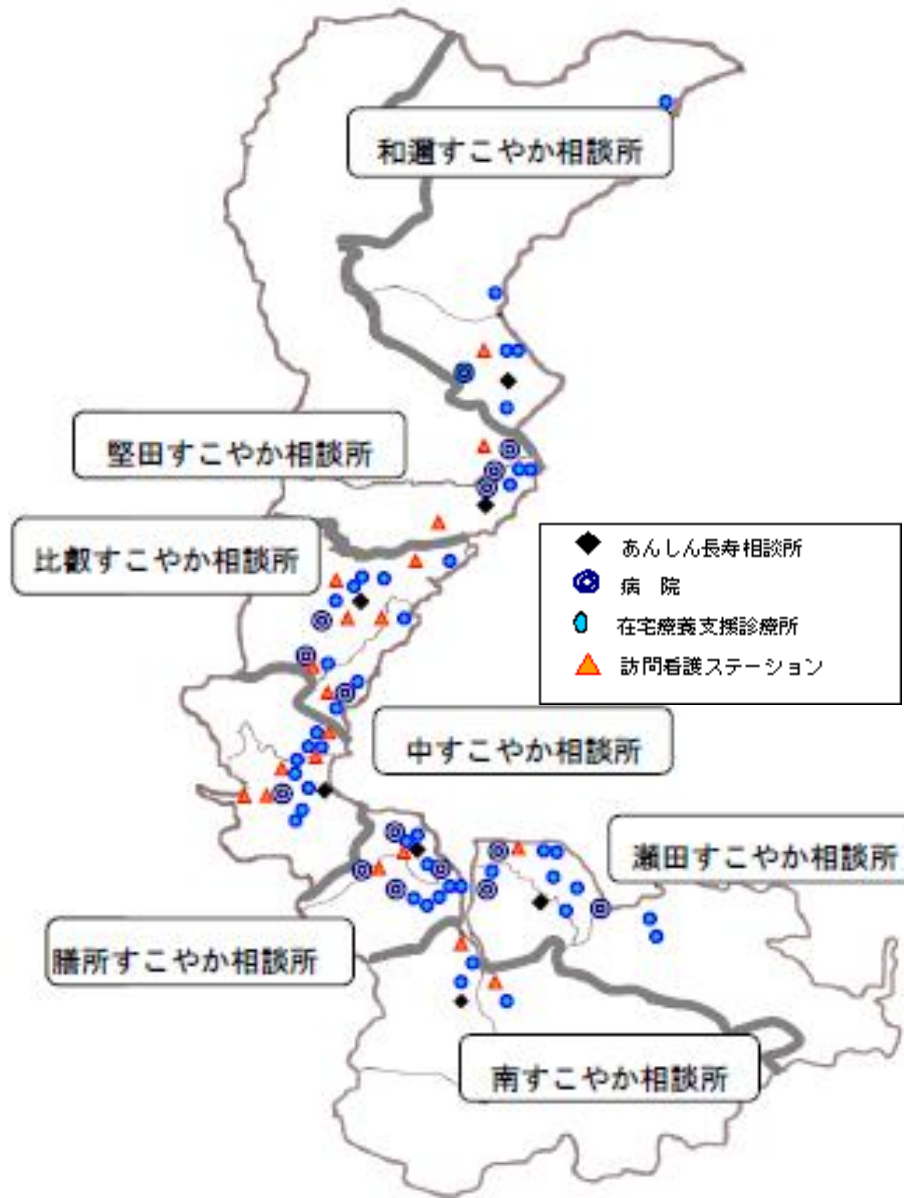


ブロック別の状況 (人口等)



	人口	0~14歳 (割合%)	65歳以上 (割合%)	75歳~ (割合%) (再掲)	要介護 認定者	学区数 (小学校区)
大津市全体	342,031	48,950 (14.3)	81,948 (24.0)	36,900 (10.8)	15,250 (18.6)	37
①和邇	22,731	2,711 (11.9)	6,753 (29.7)	2,948 (13.0)	1,242 (18.6)	4
②堅田	49,505	6,523 (13.2)	11,153 (22.5)	4,841 (9.8)	1,994 (18.6)	8
③比叡	46,456	6,589 (14.2)	11,918 (25.7)	5,439 (11.7)	2,516 (18.6)	5
④中	51,077	6,710 (13.1)	13,552 (26.5)	6,491 (12.7)	2,632 (18.6)	6
⑤膳所	61,623	8,729 (14.2)	14,808 (24.0)	7,004 (11.4)	2,719 (18.6)	4
⑥南	36,508	4,714 (12.9)	9,869 (27.0)	4,202 (11.5)	1,686 (18.6)	4
⑦瀬田	74,131	12,974 (17.5)	13,895 (18.7)	5,975 (8.1)	2,461 (18.6)	6

大津市の在宅療養支援診療所等の状況



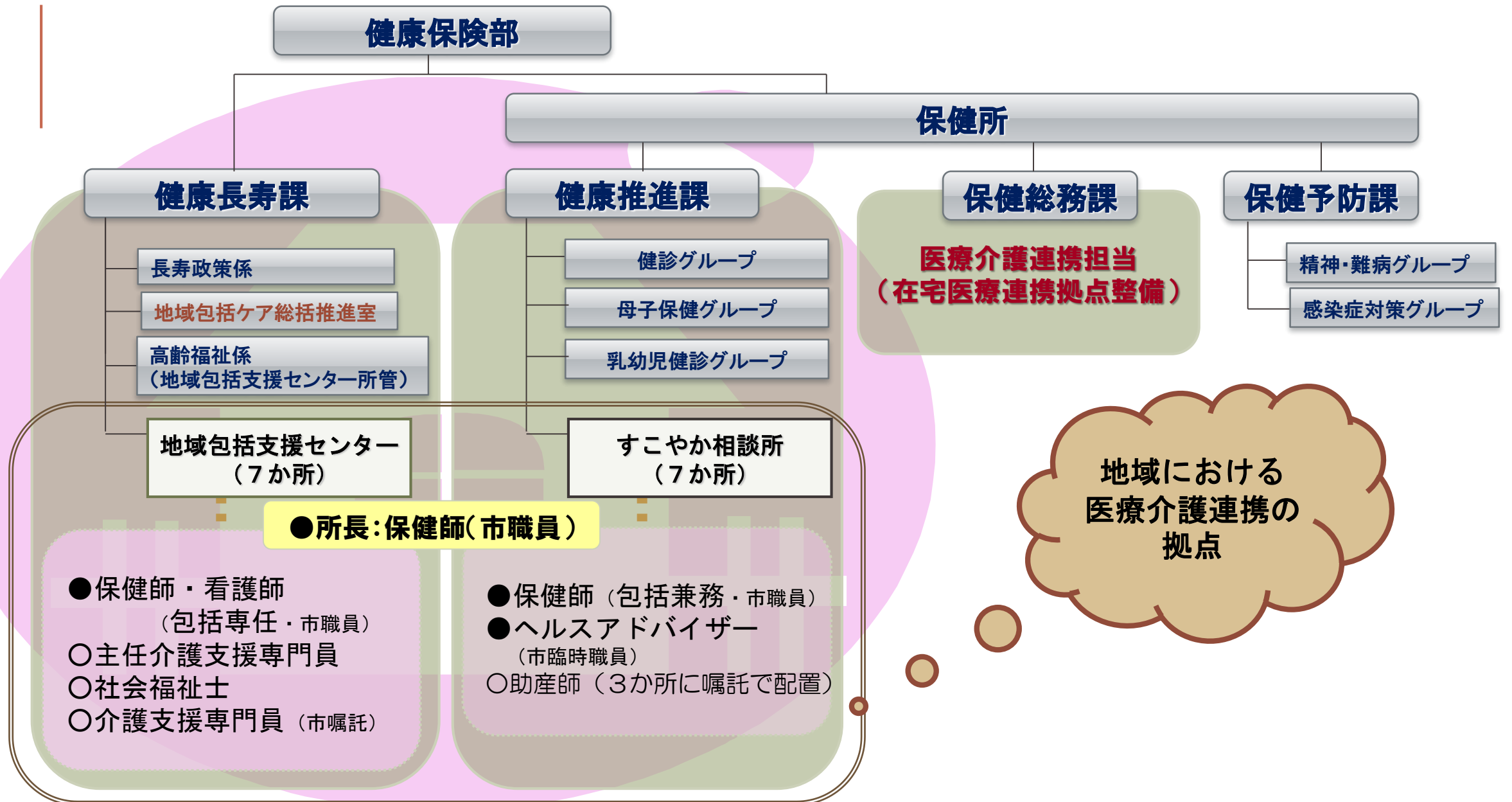
エリア	病院 (H27.4.1)	在宅療養支 援診療所 (H27.4.1)	訪問看護ス テーション (H27.8.1)
和邇	1	5	1
堅田	3	3	2
比叡	3	9	6
中	1	8	5
膳所	4	8	2
南	0	4	2
瀬田	3	8	1
合 計	15	45	19

資料：近畿厚生局、介護保険課

すこやか相談所と あんしん長寿相談所(地域包括支援センター)の配置



すこやか相談所と地域包括支援センターの体制



大津市における在宅療養支援体制

乳幼児

学齢期

青年壮年期

高齢期

H24・25・26 モデル事業（厚労省医政局）

H23・24 モデル事業（厚労省医政局）

在宅医療連携拠点の整備

医療

医療体制の整備・医療資源の充実

在宅療養支援のための医療サービス

福祉

障害・特定疾患等疾患年齢に応じた諸制度・サービス

介護保険制度・サービス

地域

地域の支えあい（自助・共助）・インフォーマルサービス

活動

子育て支援・教育

就労

生きがい・介護予防

住

住まい

地域包括ケア

行政
機
関
関
与

保健所（保健総務課・健康推進課・保健予防課）

障害福祉課・保育関係課

長寿政策課・介護保険課

教育委員会

産業分野

住宅課

消防（救急）・警察

平成27年度 在宅医療・介護連携推進事業

事業項目	大津市における該当事業
(ア)地域の医療・介護サービス資源の把握	情報整備事業（H27は情報の把握と方法の検討）
(イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の協議	医療福祉推進協議会
	在宅医療拠点運営会議（H27は準備会議）
	地域リーダー会議（H26までの企画会議を名称変更）
	医療福祉関係課会議
(ウ)在宅医療・介護関係者に関する相談支援	相談支援事業（H27は準備会議等で実施に向けての検討）
(エ)在宅医療・介護サービス等の情報の共有支援	地域連携クリティカルパス（脳卒中・糖尿病）
	ICTネットワーク利用の推進（あさがおネット・びわ湖メディカルネット）
(オ)在宅医療・介護関係者の研修	多職種合同研修会
	※各所属における専門分野後との研修
(カ)切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	開業医間の連携体制構築にむけた検討
	訪問看護体制強化のための調査研究
	入退院支援ルールの実用促進（評価・研修会等）・手引きの配布
(キ)地域住民への普及啓発	市民啓発用パンフレット活用
	在宅療養や在宅看取りエリア別研修会
(ク)二次医療圏内・関係市区町村の連携	

平成27年度 在宅療養推進のための連携検討の場

～「医療」から「介護・福祉」への連携のために～

地域連携
クリティカルパス

Cure

脳卒中

糖尿病

大津市医療福祉推進協議会

医師会（協議会会長） 歯科医師会 薬剤師会 病院（公的4病院） 訪問看護ステーション連絡協議会

介護支援専門員連絡協議会 介護サービス事業者協議会 老人福祉施設協議会

健康推進員連絡協議会 社会福祉協議会 民生児童委員協議会

大津市医療福祉関係課会議

長寿政策課

保健推進課

保健予防課

保健総務課（事務局）

保健総務課主管

長寿政策課主管

地域包括ケア推進会議

地域包括ケアに関する部局を超えた関係課課長による会議

Care Health

在宅医療連携拠点整備のための検討

在宅医療連携拠点準備会議

（設置後は在宅医療連携拠点準備会議）

地域リーダー会議

（多職種連携協働地域リーダー）

医師 歯科医師 薬剤師 病院

訪問看護ステーション体制強化に関する検討会議

医師会在宅療養推進部との連携

滋賀県在宅医療セミナー

地域包括ケア部会

医療介護連携部会

地域包括

病院地域連携担当

保健総務課

住宅部会

生活支援・介護予防部会

地域医療構想

大津圏域地域医療構想検討会議

医療福祉推進協議会委員（医師会のみ2名）
全15病院
看護協会

（滋賀県健康医療課と共同事務局）

病床機能分化・連携部会

医師会（協議会会長）

病院（全15病院）

入退院支援ルール検討会議

病院 介護支援専門員 地域包括

訪問看護師 看護協会

多職種連携のためのブロックリーダー会議

医師 歯科医師 薬剤師 訪問看護師

病院 介護支援専門員 地域包括（事務局）

多職種連携合同研修会

（対象）医療・介護関係職

地域ケア会議

7ブロックにおいて地域包括支援センターが開催

7ブロックごとに開催

多職種連携取り組み体制

～一人で抱え込まない在宅療養支援のための多職種の顔の見える関係作り～

平成24年度 地域リーダー研修

医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護・介護支援専門員・病院・包括

平成25年度 医療福祉関係者合同研修会

北 部

医師
歯科医師
薬剤師
訪問看護師
ケアマネ
病院
包括

医師
歯科医師
薬剤師
訪問看護師
ケアマネ
病院
包括

医師
歯科医師
薬剤師
訪問看護師
ケアマネ
病院
包括

和邇

堅田

比叡

中 部

医師
歯科医師
薬剤師
訪問看護師
ケアマネ
病院
包括

医師
歯科医師
薬剤師
訪問看護師
ケアマネ
病院
包括

中

膳所

南 部

医師
歯科医師
薬剤師
訪問看護師
ケアマネ
病院
包括

医師
歯科医師
薬剤師
訪問看護師
ケアマネ
病院
包括

南

瀬田

保健総務課

健康長寿課

平成26年度～ ⇒ エリアごとに実施（事務局：地域包括支援センター）
多職種合同研修会・市民啓発活動の取組み

平成26年度～ 多職種連携の取り組み体制

～一人で抱え込まない在宅療養支援のための多職種の顔の見える関係作り～

企画会議	地域リーダー	医師	歯科医師	薬剤師	訪問看護	病院地域連携担当	介護支援専門員	行政		
和邇	各職種のブロックリーダー							あんしん長寿（ブロック事務局）	健康長寿課	保健総務課（全体事務局）
堅田										
比叡										
中										
膳所										
南										
瀬田										

地域リーダー：各職種代表として大津市全体の職種間連携についての調整を行うとともに、各ブロックにおけるそれぞれの職種の活動状況について把握し相談や調整を行う

ブロックリーダー：ブロックにおける各職種代表として他の職種や包括と連携してブロックにおける活動の企画に参加し、職種内で活動に関する周知や調整を行う。

平成27年度の活動

■ブロック別

(ブロックリーダーと事務局(あんしん長寿相談所))

- ①多職種協働の推進のための取り組み
- ②市民啓発のための取り組み

■大津市全体

(地域リーダーと事務局(保健所))

- ①ブロックリーダー養成講座(7月12日)
- ②実践報告会の開催(3月6日開催予定)

～多職種が考える各エリアの課題と今後の目指すべき姿～

《平成25年度医療福祉関係者合同会議GWより》

	課題	在宅医療宣言（目指すべき姿）
和邇	<ul style="list-style-type: none"> ○住民サイドの不足・知識不足・死に対する価値観、サービス事業とのネットワーク作り ○窓口の一体化・多職種連携・地域の環境整備・知識不足（住民・事業所） 	<p>家族・介護者がいなくても在宅での生活が最後まで続けられる（地域力をあげる）</p>
堅田	<ul style="list-style-type: none"> ○患者の意思が尊重されていない場合がある ○システム・情報の不足 ○担当者間の連携不足 ○医師の連携不足 	<p>顔の見えるチーム医療</p>
比叡	<ul style="list-style-type: none"> ○今ある社会資源が有効に使えていない 	<p>本人の気持ちを大切にする在宅医療</p>
中	<ul style="list-style-type: none"> ○サービス担当者会議の効果的な活用 ○多職種の活用と情報の共有 	<p>もっときめ細かな多職種連携を！！</p>
膳所	<ul style="list-style-type: none"> ○各職種間・同業種間の連携を深めあう 	<p>高齢になっても安心して暮らせる</p>
南	<ul style="list-style-type: none"> ○過疎化 ○高齢化 ○マンパワー不足 ○交通手段が少ない 	<p>多職種・同職種連携（サポート体制の充実と関係機関連携） 開業医と介護事業所の連携</p>
瀬田	<ul style="list-style-type: none"> ○ネットワークシステム（人-人、システム）の構築 ○教育と研修を誰が開催するかあいまい ○利用者本人を取り巻く医療の連携 	<p>多職種間が有機的に連携でいることを目指す</p>

①ブロック別多職種連携のための合同研修会(平成26年度の取組)

エリア	実施概要	開催回数
《和邇》 OK(大津北)ミーティング	OKミーティング(多職種合同研修会) 奇数月第4木曜日18時～ 大津赤十字志賀病院	5回
《堅田》 あんしんネット堅田	多職種合同研修会 8月23日(土)16時～ びわ湖大橋病院	1回
《比叡》 比叡在宅療養応援団	多職種連携研修会 8月・10月・2月 19時～ 坂本市民センター	3回
《中》 中多連(中エリア多職種連携推進会議)	多職種連携研修会 9月18日(木)午後2時～3時40分 大津赤十字病院研修室	1回
《膳所》 膳所地域多職種連携の会	8月21日(木)午後2時～3時30分 富士見市民センター 2月12日(木)午後2時～3時30分 大津市民病院	2回
《南》 チーム洗堰(あらいぜき)	多職種連携研修会 9月25日(木)17時～18時30分 南老人福祉センター 11月 日(日)17時～18時30分 南郷市民センター	2回
《瀬田》 チーム勢多	多職種連携勉強会(ブロックリーダーを中心とした勉強会) 8・10・12・2月 午後1時30分～2時30分 瀬田市民センター	4回

②在宅療養・看取りに関するエリア別研修会【市民啓発】

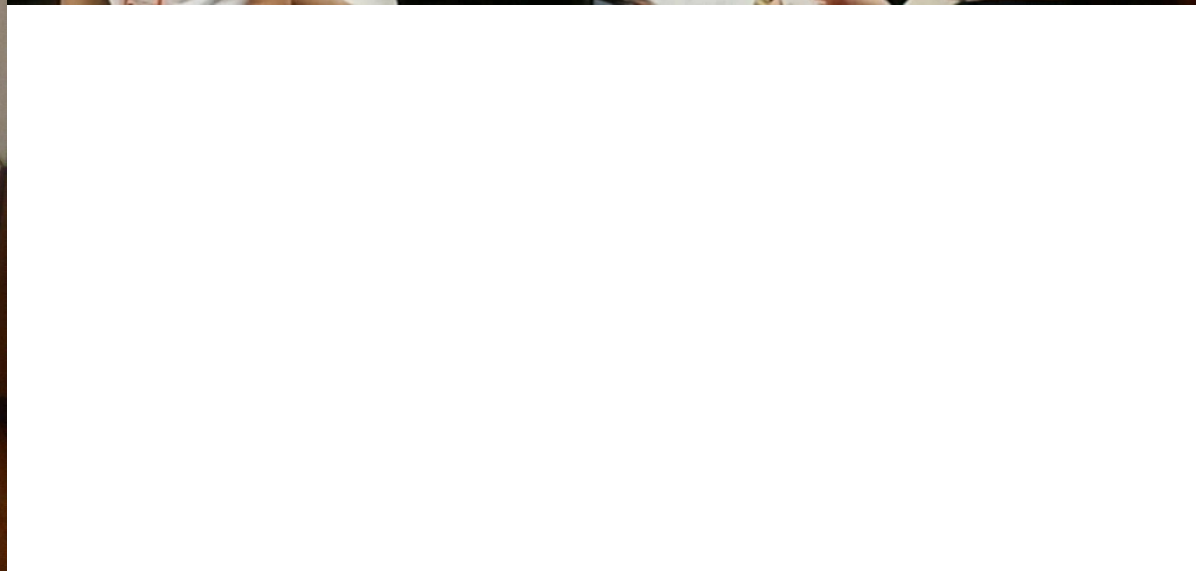
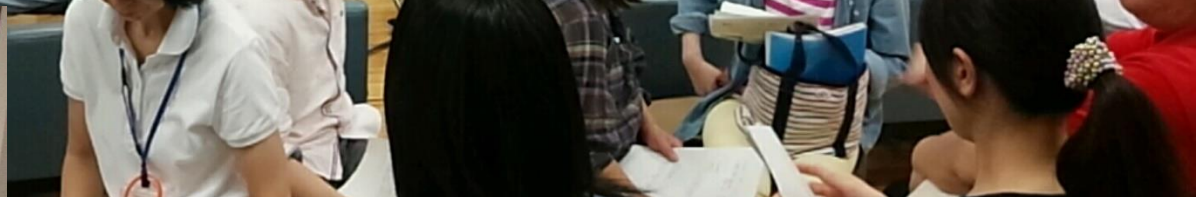
	内容	参加人数
和 邇	平成26年11月23日（日） 和邇市民センター（社協祭りと同時開催） オリジナル市民啓発劇 「ホンマに家でよかったわ」 ※福祉用具展示ブース併設 ※セラピストによる移動介助・歯科医師による口腔ケアに関するミニ講座も同時開催	60名
堅 田	平成27年2月22日（日）午後1時30分～3時30分 堅田市民センター 心をサポートする元気が出る“医良”（療）～在宅医療と在宅介護～ （講師）大矢治世 医師	108名
比 叡	平成27年3月1日午後1時30分～3時30分 日吉台市民センター（日吉台学区社協と共催） （医療福祉関係者によるパネルディスカッション） 「“最期まで住み慣れた場所で暮らしたい”を形にした支援の輪」 ※福祉用具展示ブース・エンディングノート展示併設	49名
中 ・ 膳 所	平成27年1月25日（日）午後1時30分～4時 大津市役所別館 1階大会議室 （医療福祉関係者によるパネルディスカッション） いきいき生きて逝く～自分の将来どうするの?!～ ※福祉用具展示ブース・口腔ケア・介護食・エンディングノート展示併設	77名
南 ・ 瀬 田	平成27年1月31日（土） 午後2時～4時 瀬田東市民センター （医療福祉関係者によるパネルディスカッション） 看取りに携わるものとして出来ること～本人・家族もチームの一員～	86名

各職種の活動参加状況

職種	H25年度 (延べ人数)	H26年度 (延べ人数)
医師	19	36
歯科医師	21	21
薬剤師	18	64
訪問看護師	17	32
病院地域連携担当	17	41
ケアマネジャー	34	201
その他職種	0	133
合計	126	528 (※3)
開催回数 (合同研修会・エリア別研修会)	4回 (※1)	23回 (※2)

- ※1 平成25年度 医療福祉関係者合同研修会開催回数
- ※2 ブロック別多職種連携のための合同研修会および在宅療養・看取りに関するエリア別研修会の開催回数
- ※3 合同研修会・エリア別研修会に加え企画会議参加者数も加算

多職種合同研修会



市民啓発のためのオリジナル劇



在宅療養・看取りに関するエリア別研修会



在宅療養・看取りに関するエリア別研修会



リーダー養成講座・合同報告会



各リーダーの取り組みと課題

職種	取り組み	課題と対策
医師	<p><u>大津市医師会として…</u></p> <ul style="list-style-type: none">○啓発活動：市民公開講座（終活講座）、認知症の啓発健康フェスティバルへの参加など○会員研修や、医師会誌に「多職種連携の必要性と取り組みについて」に関する内容で発信 <p><u>リーダーとして・個人として</u></p> <ul style="list-style-type: none">○各ブロックのリーダーの状況を把握し、サポート、活動の促進を図る○多職種による勉強会を自院で開催○県内（市内）での在宅療養の啓発。県外でも、在宅における栄養管理にも地域連携や多職種連携が必要であることを啓発するため、講演・発表、資材・雑誌等に掲載している	<ul style="list-style-type: none">○在宅療養支援診療所の拡充○一人でも多くの医師に、各ブロックの多職種連携の活動に参加してもらう

各リーダーの取り組みと課題

職種	取り組み	課題と対策
歯科医師	<p><u>大津市歯科医師会として…</u></p> <ul style="list-style-type: none">○訪問歯科診療登録名簿の作成、配布(毎年実施)。○在宅療養支援システム(現あさがおネット)研修会開催(H25.10.24)。○平成26年度在宅医療セミナーへの歯科医師派遣(H26.09.21)○地域連携研修会の開催(H26.09.25)○大津市内7ブロックの在宅療養サポートチームそれぞれへ歯科医師が参加し、その中で歯科に関する情報発信を行う。○要介護者に対する無料出張歯科健診モデル事業(かむかむ健診)継続実施(H24～)○歯科医師会保有ポータブルユニットの使用方法講習会開催。 <p><u>リーダーとして個人として</u></p> <ul style="list-style-type: none">○各ブロックのリーダーの状況を把握し、サポート、活動の促進を図る	<p>歯科が在宅に関わる場合、その要介護者の口腔内に問題点があることを、本人もしくはその家族、他職種に認識してもらい、連絡を受ける必要があり、歯科医師自身が口腔内の確認を行うことができない。そのため、要介護者の口腔内の現状が把握できていない。</p> <p><u>○他職種にその要介護者の口腔内に問題があることを認知・連絡できるよう、啓発活動を続けていく必要がある。</u></p> <p><u>○歯科医師側としても、自らのスキルを高めるとともに、他職種とのコミュニケーションを深めていく必要がある。</u></p>

各リーダーの取り組みと課題

職種	取り組み	課題と対策
薬剤師	<p><u>大津市薬剤師会として…</u></p> <p>連携の強化(顔の見える関係作り)のために、一人でも多くの薬剤師が各地域で行われる多職種連携の会(研修等)に参画できるように会員宛に、研修会等の開催案内の広報、参加要請をするよう事務局を通して声かけ</p> <p>※各ブロックのリーダーについては、薬剤師会未加入の薬局等が多くあるため、地域の未加入薬局にも積極的に働きかけをしていた</p>	<p>○薬剤師の職能のアピール</p> <p>まだ、他の職種に十分に理解されているとはいえない状況。多職種との合同研修や会議などを開催し、双方の職種の理解を深めていく</p> <p>○非会員への研修案内周知方法の検討</p>

各リーダーの取り組みと課題

職種	取り組み	課題と対策
病院	<p>(平成25年度) 医療福祉関係者研修会への参加 (15病院中9病院の担当が参加) ⇒(成果)として、病院の中だけで無く地域の関係者と顔の見える関係や地域での状況を知ることができた。</p> <p>(平成26年度) 病院協会 大津保健医療圏の退院支援機能強化事業取り組みにリンクさせた。 大津市内14病院に対し7つのブロックでの取り組みを案内しブロックを越え企画会議や研修会へ参加している。 ⇒(中間評価)患者の入院前・退院後の状態が今まで以上にわかるようになった。 地域担当者との顔の見える関係が構築され支援時に安心しておこなえるようになった。等があげられている。</p>	<p>○病院の地域医療連携室として、今後も地域の関係者と良好な関係を築いていきたい ⇒継続して情報の発信をしていただきたい。</p> <p>○病院協会としても退院支援機能強化事業は継続される予定で有り、今後もリンクし情報共有していければ有効であると考えている。</p>

各リーダーの取り組みと課題

職種	取り組み	課題と対策
介護支援専門員	<p>(平成25年度)</p> <ul style="list-style-type: none">○医療福祉関係者研修会へ7ブロックから参加できるよう調整。○世話役会で内容と取り組みの報告をして情報共有。次年度への協力の依頼。 <p>(平成26年度)</p> <ul style="list-style-type: none">○各ブロックのリーダーと連携し状況を把握や、サポート、活動の促進を図る。 ⇒(和邇・堅田・比叡・中)ケアマネ協の会議で情報共有。相談を受ける。(膳所)活動報告を受けており、今後活動に参加予定。(南)自分の活動地域であるので、実際の活動に参加。ブロックのリーダーの相談も受けている。(瀬田)ブロックのリーダーの企画会議及び学習が中心であり、まだ広がりが無い。	<ul style="list-style-type: none">○医師会の協力はやはり大きいので、うまく参加していただけるための声かけなどを考える必要がある。○7ブロックの包括により関わり方に差がある。活動の方向性を整理して、全体で統一する部分と地域性を出す部分を整理する必要がある。○平成27年度は春に各職種リーダーと包括、7ブロックの各職種リーダーとの会議や報告会を実施して、全体の目標設定や振り返りが出来る体制を作る必要がある。

ブロック別の取組みから ～成果と今後の取組みについて～

【成果】

- 顔を知っている人が増えたことで仕事がやりやすくなった。
- 他の職種の役割や、自分に求められていることがわかった。
- いろいろな職種の「垣根」が低くなった。
- 急性期病院との連携が深まった
- 自分たち自身の多職種連携協働事業連携の意識が高まった。 など

【今後の取組みについて】

- 専門職間だけではなく、市民の方に向けた発信をもっとやっていく必要がある。
- 市民の方と一緒に考える場を作る必要がある。
- 参加できていない人が多いので、参加しやすい工夫や、内容を伝える工夫をする。
- あさがおネットなど連携ツールを活用していくこと
- リーダーを増やしていく必要がある など

～入退院ルール策定の目指すもの～

65歳以上の市民：78,786人 75歳以上の市民：35,854人
65歳以上の認定者：14,732人 75歳以上の認定者：12,644人
(平成26年4月1日現在)

在宅療養支援
～退院支援漏れで困る人をなくそう～

《居宅介護支援事業所》

138事業所

介護支援専門員

退院支援
ルール・ツール

きっかけ

対話

《病 院》

15病院

看護師 約2700人

医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護・栄養士・セラピスト・歯科衛生士 など

病院とケアマネジャーの入退院支援ルール運用における課題と期待する成果

課題

【病院】

- 在院期間が短縮化され、退院支援が必要な高齢者が増える中、地域連携担当だけでは対応しきれない。
- 担当ケアマネジャーがいても誰かわからず連絡が遅れる。
- ケアマネジャーにより病院との連携の時期や方法が異なり混乱する。

【市民】

- 退院後に介護や医療による支援が必要だが、サービスの準備が整わないまま退院となり、退院後の生活に支障をきたす。場合によっては、健康状態の悪化をきたす。
- 入院時の環境の変化により不安や混乱が強くなる。（例：認知症高齢者等）

【ケアマネジャー】

- 担当利用者の入院時期が把握できず対応が遅れる。
- 病院毎に連携体制が異なる、窓口がわからない
- 病院により退院連絡のタイミングや内容が異なり混乱
- 連携するが、専門用語が多く難解

(H26.6調査) 入院時情報提供実施率(ケアマネジャー⇒病院) 50% 退院時情報提供実施率(病院⇒ケアマネジャー) 60%

入退院支援ルール策定の目標と取組みのポイント

目標：入院中の市民が病院から在宅療養に安心して移行できる

- 病院とケアマネジャーが連携するための基本的な流れを具体化
- 退院支援に向けた情報提供を依頼するための様式を作成
- 入院時、ケアマネジャーから病院へ入院時に情報提供をする様式を統一（滋賀県介護支援専門員協議会作成）
- 市内全病院における相談窓口一覧表を作成
- 新たに介護サービスが必要な場合に病院が判断する目安を作成

期待する成果

【病院】

- 入院前の在宅での状況が正確に把握でき、入院中の患者個々の状況に応じた対応が出来る。
- 軽症患者は病棟看護師が主体となって早期から退院に向けての準備が出来る。
- ケアマネジャーとの連携がスムーズに行える。

【市民】

- 退院までに、在宅での療養に必要な支援の内容や導入の見通しがたち、安心して退院できる。
- 安定した状態で入院生活が送れる。（環境の変化による混乱が減る）

【ケアマネジャー】

- 早期から退院に向けての準備が出来る。
- 病院との連携がスムーズに行える。

目標：(H29.6調査) 入院時情報提供実施率(ケアマネジャー⇒病院) 65% 退院時情報提供実施率(病院⇒ケアマネジャー) 75%

結果：(H27.6調査) 入院時情報提供実施率(ケアマネジャー⇒病院) 75% 退院時情報提供実施率(病院⇒ケアマネジャー) 83%

入退院支援ルール取組みの経過

② 何のために情報がほしいのか？

(医療に関する点)

- ・ 診断名 ... 特定疾患ほど使える制度がある。
リハビリの必要性やしてはいけない事等知りたい
情報共有のため。既病・症との関連。
感染症があるか
- ・ 今回入院の理由 ... 例えば骨折は住環境に原因があるか等がわかる。
- ・ 治療内容 ... 在宅時の訪看等への情報。
- ・ リハビリの目標と内容 ... ADLがとまらなくなったか。福祉用具の必要性。
在宅でしてはいけない動作の確認。
- ・ 病院から ... 介護は誰。家族は出来るかを知りたい。がん末期の
説明が出来ているのか。理解が出来ているか。告知がされているのか
(家族の受け止め)
- ・ 病状の説明が出来ているのか。家族が理解できているのかを知りたい
本人

(今後の治療方針)

- ・ 受診の必要性 ... 病気の再発をふせぐため。
- ・ リハビリの必要性 ... とんぱりハビリが必要か。専門的はPT.OT.STの
継続利用が必要かを知りたい
- ・ 薬物治療内容 ... 副作用が ~~出て~~ 出るか。
食事との組み合わせでダメなものがあるか

(医療処置)

- ・ 種類 ... 処置の担い手(看護師 家族か子供の) サービス 東海
- ・ 方法 ... 処置方法を間違えると事故につながる。 かい ネット 松田

＜ルールの浸透と継続的運用するための工夫＞

◎ やってほしいと判らぬ。準備は部分は。
その都度改善して工夫していく必要性。

◎ <精神科> 今後は障害サービス使ってる
ENTの目的が患者様の高合点等により。
CMからの積極的情報提供は重要。

◎ CMとFAの関係においても
★ 情報の濃さ・精密さが違う。

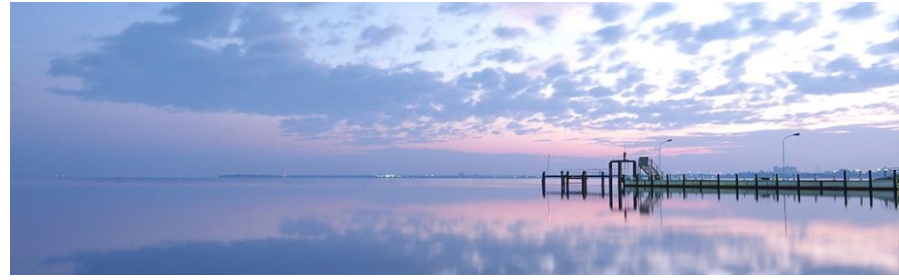
この
レベルにシートの運用方法の決
めが大切。



運用できています

忘れてはいけない！誰のために





ご静聴ありがとうございました